

風土記の丘の花だより302

今、そしてこれから見られる植物(2025年12月27日)

すいぶん寒くなり、まさに「もう幾つ寝るとお正月」の歌のとおりの時期になりました。花だよりも、いよいよ令和7年最後の発行となりました。お正月にちなんで、何かおめでたい植物はないかと探しましたが、今回も、華やかさを欠く植物4種を紹介し、本年を締めくくりたいと存じます。



ジャノヒゲの実です。別名をリュウノヒゲとも言いますが、蛇にはヒゲがないので、龍のヒゲの方がしっくりきますね。(ジャは蛇ではなく、別のものを表す言葉だという説もあります。) 離れて眺めているだけでは実は見つかりませんが、それこそ髭もじゃみみたいな細い葉をかき分けると、この青い実が出てきます。かつてはユリ科とされてきましたが、今ではキジカクシ科に分類されています。科学が発展するにつれ、分類がコロコロ変わってややこしいです。



ナギの葉です。ここでは私は1本しか知りません。小早川住宅の前の坂を上ってすぐ、カキノキの所を左に入った奥にあります。ただ、入り口には無情にもロープが張られています。谷村家住宅の南側から見上げてください。古来より神様との関わりが強い木とされ、神社には特に多く見られます。和歌山県では熊野速玉大社の大木が有名です。ナギはマキ科の植物で雌雄異株です。写真のこの木は雌株なので実がなります。実は神社ではお守りにもなっています。広葉樹のように見えますが、分類上では、これでも針葉樹です。



小早川住宅の上の少し広くなった所で、ヤツデの花が咲いています。小さな花がたくさん丸く集まって、ピンポン球ほどの花のかたまりがたくさん付いています。細く伸びているのは雄しべです。付け根には小さな5枚の花びらが開いているのを見ることができます。ところで、ヤツデは漢字で書くと「八つ手」です。これは葉が深く切れ込んでいることによります。でも八つには切れ込んでいません。だいたい七つか九つです。奇数でないと、真ん中が尖ったカッコいい葉にはなりませんからね。



ヤブランの実が黒光りしています。植物には真っ黒な色はないと言われていますので、この色は深い青色、濃い紺色というところでしょうか。ただ、今の季節、写真のようにたくさんの実が付いている株は少なくなりました。多くは半分以上落ちてしまっています。この草も上のジャノヒゲ同様、今はキジカクシ科となっています。

さて、来年はじめ、303号の発行は1月10(土)となります。では皆様よいお年をお迎えください。 松下